

検査日	2003年03月05日	病院名	*****
氏名	*****	診療科	
I D 番号	*****	担当医	
生年月日	1950年05月31日	検査部位	腹部
年齢	52 歳	造影剤	
性別	M	フィルム	

SAMPLE

所見

<腹部CT>

臨床情報；腹痛。

膵臓の腫大や膵実質内の出血や壊死は認められませんが、膵臓周囲には液体が貯留し、左 anterior pararenal space の液体貯留と筋膜の肥厚が認められます。急性膵炎に伴う変化です。

腹痛の原因と考えられます。

図1, 3で示すように両側の副腎に低吸収をしめす腫瘤が認められます。最大で17mm 程度の大きさです。辺縁はsmooth で内部は均一なdensity です。adenoma を考えさせます。

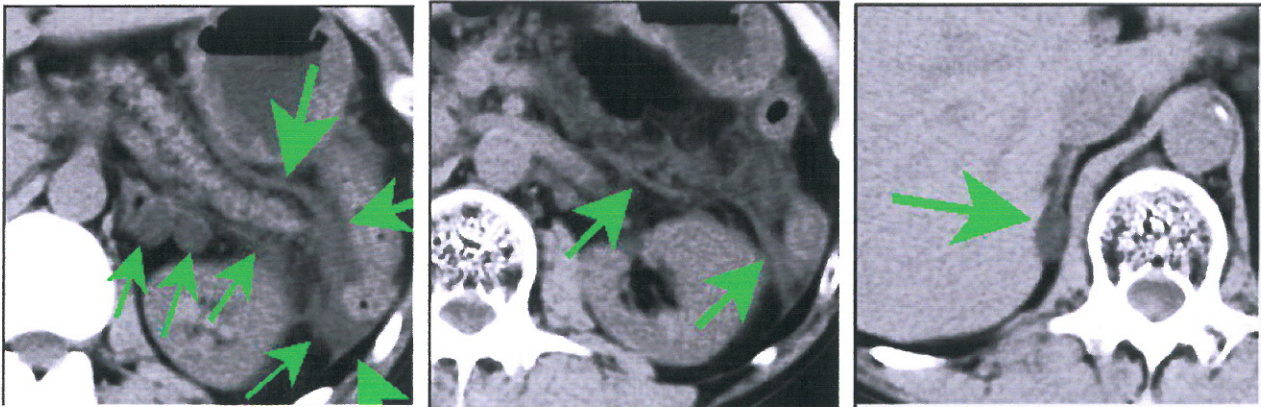
胆道に拡張は認められず、胆嚢内にも腫瘍や結石は認められません。急性膵炎をきたした原因病変はCT上指摘できません。

【まとめ】

急性膵炎。腹痛の原因と考えられます。

両側副腎腫瘍；腺腫疑い。

画像



(株)ダイヤモンドカルネット

診断医師 \*\*\*\*\*

検査日	2005年01月04日	病院名	■■■■総合病院
氏名	■■■■■■■■■■	診療科	入院3病棟
ID番号	36491	担当医	■■■■■■■■
生年月日	1927年02月14日	検査部位	頭部
年齢	77歳	造影剤	.
性別	F	フィルム	

SAMPLE

所見

<頭部 MRI>

臨床情報；左下肢のしびれ。

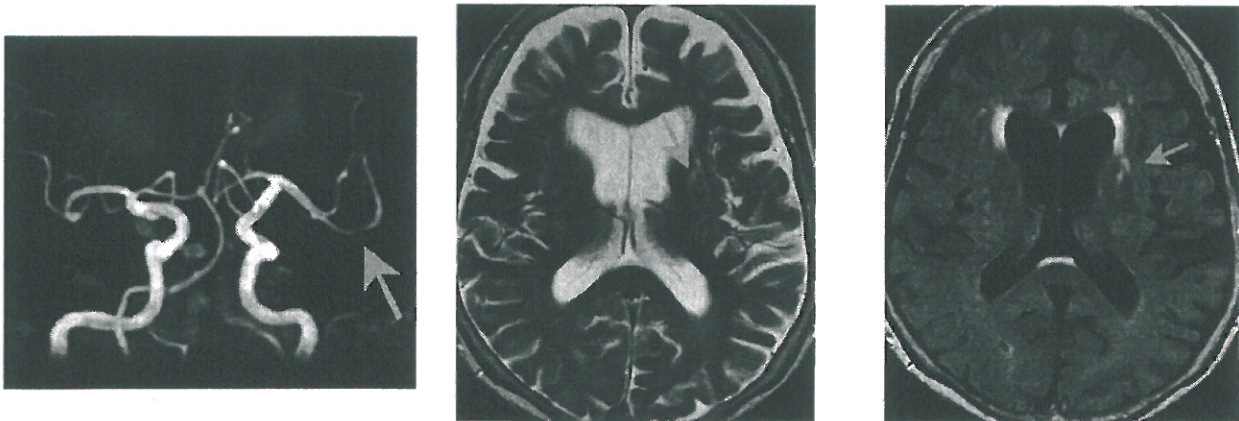
左中大脳動脈の trifurcation に severe な stenosis が認められます。動脈硬化に伴う変化と考えられます。その他頭蓋内の動脈に広狭不整は認められません。動脈瘤も指摘できません。両側後大脳動脈は後交通動脈を介し内頸動脈から分岐する variation です。

MRI では、左基底核から放線冠にかけてT2 WI、FLAIR 画像で high intensity lesion が認められ、脳虚血と思われます。明らかなラクナ梗塞や皮質梗塞の所見は指摘できません。

両側大脳半球の前頭葉を中心に脳溝の拡大、シルビウス裂の開大が認められ、脳萎縮の所見です。左右対称性の変化です。両側側脳室が左右対称性に若干拡大し、脳萎縮に伴う変化と思われます。明らかな水頭症の所見は指摘できません。

【まとめ】  
 左中大脳動脈trifurcation の著明な狭窄。  
 左放線冠の脳虚血。  
 年齢相応の脳萎縮。

画像



(株)ダイヤモンドカルネット

診断医師 DMN